



特定非営利活動法人
おもしろ科学たんけん工房

たんけん通信

～おかげさまで10周年～
記念誌を刊行します。
“子どもたちと10年”

自転車でゆけるところにあまねく科学体験塾を！！

おもしろ科学たんけん工房 代表 安田光一

原子力発電は、2酸化炭素を排出しない、クリーンエネルギーだから、いいものだと思います人も沢山居られたのではないのでしょうか？ 私もそうでした。

「科学的」に物事を見て、自分の頭で考えることの大切さを訴えて、「おもしろ科学たんけん工房」の活動を進めてきた、この私自身が、そのような思い込みに陥っていたことを、3・11事故で痛切に反省させられました。

原子力発電の結果残される、放射性廃棄物の処分方法が、未だに解決されていないという点では不安があったものの、日本の原子力発電設備自体が、これほど取り返しのつかない大事故を起こすというようなことまでは、思い至らなかったのです。 本当にうかつなことでした。

根拠のない風評被害の拡がりも！

事故のあとで広がった根拠なき「風評被害」についてはそもそも、政府や東京電力が正確な情報を出さなかったことに最大の責任がありますが、それだけではなく国民の間に、物事を冷静に、科学的に判断する力が弱く、感情的・情緒的に反応してしまう体質が根強いことも大きな原因のように思われます。

「科学への不信」も見間違い！

【科学への不信感】が、強まっているとも言われる昨今ですが、それは【科学】自体への不信を持ち出すべき問題ではないはずです。この1年の経過からも明らかのように、【科学】の知識に基づいて【技術】を開発し、その結果を人間生活に役立てるために利用する上で、絶対的な影響を与えているもの＝それは、社会の経済や政治のあり方であり、そこにこそ問題があるのだと私は考えています。物事を科学的に見て科学的に判断する力を、全ての人々が高めてゆくことは、常に、かつ絶対に、必要なことです。

私達はそのためにもこそ、活動しているのです。このことを、改めて認識し、「おもしろ科学たんけん工房」の「科学体験の場を提供する活動」に一層多くの方々の支援が得られるよう、たゆまぬ努力を続けたいと思います。

おもしろ科学体験塾

5月～7月の予定表

実施日	実施場所	テーマ名
5/12	鶴沼中学校	にじ色の涙
5/12	永野小学校	レモン電池う
5/12	汐見台小学校	にじ色の涙
5/12	都筑地区センター	てんびんばかり
5/19	戸塚地区センター	水と色のファンタジー
5/19	柏陽高校	紙ブーメラン
5/26	湘南台高校	にじ色の涙
5/26	科学館	風力車
5/26	南センター	気体の力
5/26	瀬谷小	万華鏡
6/2	杉田小学校	てんびんばかり
6/9	鶴沼中学校	水をきれいに
6/9	柏陽高校	ICラジオ
6/16	永野小学校	水と色のファンタジー
6/16	六ツ川台 CH	見ようさわろう、音のせかい
6/23	湘南台高校	光る星座ボード
6/23	フォーラム	たまごの科学
6/23	科学館	見ようさわろう、音のせかい
6/23	白幡小	たまごの科学
6/30	フォーラム南太田	でんぷんを調べよう
6/30	榎が丘小	見ようさわろう、音のせかい
6/30	三保小	ぶるぶるコプター
7/7	汐見台小学校	気体の力
7/7	あざみ野第一小	シャボン玉とスライム
7/14	鶴沼中学校	指ピアノ
7/14	柏陽高校	磁石と電気の不思議実験
7/14	フォーラム南太田	風力車
7/14	都筑地区センター	磁石と電気のふしぎ実験
7/21	永野小学校	風力車
7/21	科学館	ジェットコースター
7/21	アートフォーラムあざみ野	紙コップヘッドホン
7/28	湘南台高校	ソーラーカー
7/28	フォーラム	ぶるぶるコプター
7/28	せせらぎ公園	セミの羽化観察
7/28	希望が丘小	シャボン玉とスライム

※ 六ツ川台 CH=六ツ川台コミュニティハウス

藤沢地区グループ便り No.20

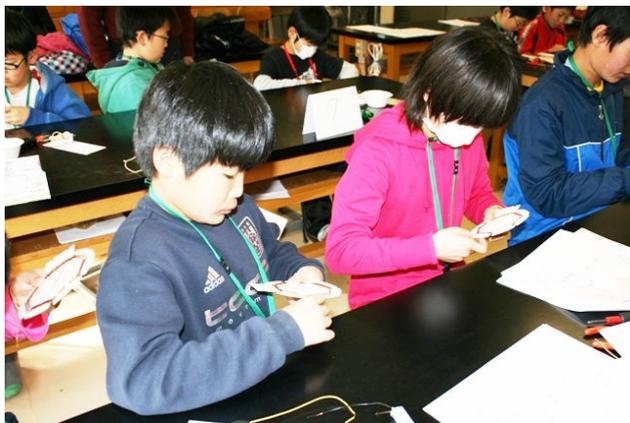
「IC ラジオを作ってみよう」

1月28日(土) 湘南台高校

この日は生徒25名、保護者19名の参加者があり、大盛況でした。ラジオを鳴らすために必要な電波について勉強しましたが、電波という言葉はよく聞けけれど、目に見えるものでもないし、短い時間ではちょっと難しかったようです。

後半は、IC ラジオの組み立てをしました。アンテナとなるスパイダーコイルには、長さ11メートルの銅線を巻きつけましたが、何度もまき直しをしながらも、みんな一生懸命でした。また、小さなIC、コンデンサーなどの部品をねじ止めする等、日頃あまり経験していないことにも挑戦しました。

最後に完成したラジオを持って、一番よく聞こえる場所を探そうと、廊下を行き来する嬉しそうな姿が印象的でした。



「紙コップでヘッドホンを作ろう」

2月11日(土) 鵜沼中学校

この日は14人が参加して、ヘッドホンから音が出る仕組みを、磁石・コイルなどを使って勉強しました。また、音は空気が振動して伝わることも解りました。

ヘッドホンの製作では、紙コップをハサミで適当なサイズに切ったり、細い銅線をコイル状に巻き、それを糸で縛ったり、日常の基本的動作の練習もしました。上手にできる子供、なかなかできない子供と個人差がありましたが、是非マスターしてほしいと思いました。全員が完成したヘッドホンを、持参したラジオ、CDプレーヤーなどに接続してみて、想像以上によく聞こえるのでビックリしていました。

最後に主任からヘッドホンをマイクとしても使うデモンストレーションがあり、各テーブルの代表が自分のヘッドホンで感想を発表し、体験塾を終了しました。



◆2012年度も藤沢市教育委員会の後援で科学体験塾を実施

藤沢市内(鵜沼中学会場、湘南台高校会場)で行っている科学体験塾は、08年度(平成20年度)以来藤沢市教育委員会の後援を得て行ってきましたが、12年度も同様に後援を得て行うことになりました。

◆藤沢地区で科学体験活動推進スタッフ養成講座を開催

昨年度と同様に、5月～9月に藤沢市内中心でスタッフ養成講座を開催します。5月19日(土)藤沢市市民活動推進センターで実施する説明会からスタートし、体験塾の見学会、集合講座、体験塾での現場実習などを行ないます。詳細はチラシ、ホームページをご覧ください。

(取材と記事制作: 笹野、鹿島)

横浜東地区グループ便り

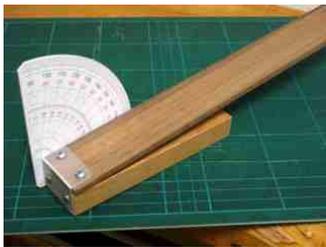
体験塾での3つの試み(マサツとスベリ)

島田 祥生



南区内の体験塾を、昨年6月よりフォーラム南太田との協働事業で開催しています。12月に初テーマ「マサツとスベリのせかい・・・くるくるリングのメカニズム探険」を行ない、そこでいくつかの試みをしてみました。

◆グループ討議と実験など、自分達で考え、試してみる時間をたくさんとりました。「もしも、摩擦がなかったら」のグループ討議では、みな想像力が豊かで、「鉛筆で字がかけない」など期待以上の着想力でした。考え、試す時間を彼らにふんだんに用意してよかったと思っています。



◆極力、同一校(同学年)をまとめて、共同作業の活性化に期待してみました。

同じクラスが3人集まるなど、気心が知れた同士で活発な意見交換ができていて、指名された子どもたちも、みな臆することもなく堂々とした発表をしてくれました。学校単位でまとめるのも、あながち悪いことではないようです。

◆家族で同じ実験ができるよう、実験装置を工作させました。

グループでの実験でも、用意した材料では飽き足らずいろいろなものを試していました。持ち帰った実験装置で、家族みんなが楽しんだと信じています。

時間配分やストーリーの連続性などに改善する余地が沢山ありましたが、今後もこのような試みを続けてみたいと思っています。

六ツ川台コミュニティハウスで開始

遠山 勝美



六ツ川地域の子供達達の利便性を考えていたところ、六ツ川台コミュニティハウスを六ツ川台小の校長先生から紹介されました。

ここは、六ツ川台小の校内にあることからロケーションは絶好で、部屋の広さも十二分であり申し分ありません。一応対象校として、六ツ川小、六ツ川台小、六ツ川西小の三校とし、この地域近隣に在住の横浜東と西グル

ープの会員5名で対応することにしました。

一回目の体験塾は、「にじ色の涙B」で表面張力の実験と工作です。当日は参加者8名、保護者7名と人数も少ないことから保護者の方々にも全く同様に経験してもらいました。(但し、子ども達とは別々のグループに分けました)



にじ色の涙は、通常の方法で7色のなみだを作り、次いで予め作っておいた小さい涙を使って二重の涙を作りました。

表面張力の実験は、水と石けん液の違いを比較したり、一円玉を3、7個浮かべて、軽く容器の端を叩くと、どのようになるのか予想したりして、大いに盛り上がりました。治具を使ったことで、全員が成功しました。水利に少し不便はありましたが、ますますの出発でした。

皆さん、一円玉を7個浮かべるとどのようになるかわかりますか。やってみてください。

笑顔の魔法

大川 仁美



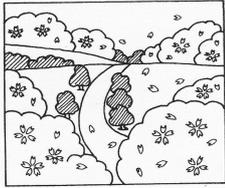
昨年、サウジアラビアのダンマーンで石油博物館と科学館を家族で訪れました。

敬虔なイスラム教国であるサウジアラビアでは、公共施設の入館も男性・女性・家族と時間帯が区切られています。たまたま訪れたとき、女子小学校の児童達が遠足で見学中で、玄関前で待つことに。5月でも40℃近い気温に小学2年生の娘はぐったり。

すぐに娘と私だけは中で待つ許可が出て、ホールの片隅で休んでいたところ、私達に気付いた引率の先生と思われる老婦人が、遠足の記念品の色鉛筆を娘にも差し出して、とびきり素敵な笑顔で語りかけてくれました。

言葉が分からなくて緊張していた娘も、老婦人の笑顔に安心して『ありがとう』とニッコリ受け取ることができました。しばらくすると、老婦人と同じような素敵な笑顔を見せながら、女子児童達が帰りのバスに向かって歩き始めました。

新しい発見で目をキラキラさせる子ども達の素敵な笑顔に出会える科学塾。私達大人も、子ども達が真似したくなるような笑顔で過ごせるといいなと思います。



横浜北地区グループ便り



今回は、長年交通安全の研究をして来られた小島さんと、体験塾「インドアプレーン」の一環として飛行機整備工場の見学を申し込んだら運良く決り参加して頂いた遠藤さんに、また、スタッフ養成研修で「ハサミの使い方」の指導をいつもして下さっている宮坂さんに寄稿をお願いしました。
(古村)

安全運転の基本

まず第1は正しい運転姿勢です。座席には深く座り、ブレーキが十分に踏めるように座席の前後、上下を調整します。ハンドル上部を握れるようにシートバック(ハンドル)の角度を調整します。シートベルトは首にかからないように取り付け位置を調整します。

第2は走行中のタイヤの位置が見えますか？左側の白線にタイヤをぴったりと着けられますか？車庫入れ等でよく見えない時は、一旦降りて、自分の目で確認しましょう。右左折時には内輪差もお忘れなく。

第3は危険予知トレーニングです。走行中に前方の車、自転車、歩行者などの危険性を正確に評価できますか？その先どの様な行動を取るか推定できますか？飛び出しなどの発生する場面が予測できますか？

いずれにしても余裕をもって安全運転を！

(小島 幸夫)



工作で笑顔に

私は、認知症や高齢の方々と一緒に工作活動をしています。

分かりやすい色や形、簡単だけど見栄えのする物、季節感のある物などを一緒に作ります。お互いにコミュニケーションをとりながら、作ることを心がけます。出来ない部分は手伝いますが、少しでもご自分で作るように声かけに工夫しています。

もう一つ大事なこととして、作品が完成したら発表会をします。周りの人から褒められたり、拍手をもらうと、笑顔になるのです。

工作活動は、手指への刺激がリハビリになり、また、何が出来るかを想像したり、完成した時に達成感がある事から、脳や心の機能の保持につながるのではないかと考えています。(宮坂 幸子)

JAL見学会(1月21日)

「西の空が晴れていたら、富士山が夕日に映えてキレイなんですよ。」と、整備工場の建物を結ぶ通路の窓の外を指さして、ガイドの方からの説明がありました。そこは、日本航空の羽田の整備場。集まった見学者は、児童とその保護者、兄弟で42名、工房スタッフ6名の合計48名です。12月に白幡小で実施された体験塾のオプションでした。

元乗務員の方から、教室で、飛行機が飛ぶ原理の説明を受けてから、実際に、格納庫へ移動して、整備内容の説明を受けました。

記念写真を撮ったのは、政府専用機の前。どうですか。みんなの顔の楽しそうなこと。体育館で飛ばした輪ゴムの動力の飛行機と、ジェットエンジンで、空にかけ上る本物の迫力の違い。将来、そんな飛行機に乗ったり、設計する仕事に就きたいというような夢を持ってもらえたら、嬉しいです。

(遠藤 悦郎)



北便りを担当して1年が経ち、やっと慣れてきました。徐々に新しい企画も考えていけたら、と思っています。
(北 Gr 編集担当・森越)

「認定 NPO 法人」とは何か? ご存知ですか?

「認定 NPO 法人」制度は従来からありましたが、ほとんどの NPO 法人が、その認定を取ることができませんでした。要件が厳しすぎたためです。

ところが、昨年6月、ようやく法律が改定され、

「認定」をとるための要件が、緩和されました。

また、「認定 NPO 法人」に対して寄付した場合の

寄付した人の税金免除の幅が広がりました、

これからは多くの NPO 法人が

この認定を取るようになるでしょう

『認定 NPO 法人』になると、社会一般の人々からの寄付が受けやすくなります。具体的にいうと、寄付した方が、確定申告することで、地方税も含めると、最大で寄付した金額の50%が、戻ってきます。10万円寄付した場合、約5万円が戻ってくることとなります。

これまで、「おもしろ科学たんけん工房」に寄付して頂いても、寄付した方が税金の上で、なんら特典を得られませんでした。

しかし、「認定 NPO 法人」の認定を得られれば、それが可能になるのです。そこで、「おもしろ科学たんけん工房」もこの認定をとることにしました。

公益的な社会貢献活動をやっている「NPO 法人」が、その公益性を社会一般あるいは地域の人々から認められ、支持を得られるのであれば、その法人を一般の NPO とは区別して「認定」し、よりいっそう社会一般あるいは地域からの資金的な支援つまり寄付が受けやすいようにしよう!というのが、この認定制度の趣旨です。

そのためには、まず、その NPO 法人への支持の象徴である【寄付の実績】が、重要になります。

「おもしろ科学たんけん工房」は、明らかに、公益的な社会貢献活動を熱心に、進めていますし、その活動は地域社会の皆さんから高い評価を頂いていますが、残念ながら、社会一般あるいは地域の皆さんからの「寄付」という形での支援は、あまり多く頂いていません。

現在、年間数十万円の寄付がありますが、ほとんどが会員からの寄付であり、外部からの寄付は微々たるものです。これでは、「社会一般からの、支持を得ている」とは、認めてもらえません。認めてもらうには

年に 3000 円以上の寄付者が
常時 100 人以上存在すること【認定要件】

です。そのためには会員・正会員が自ら寄付することはもちろんですが、知人・友人に賛助会員になって頂いたり、(賛助会員も寄付者の人数に数えられます)寄付を頂いたりして、現在よりも、もっと寄付者の人数を増やすことが必要です。また、地域社会や地域の企業などにも更に働きかけて、賛助会員や寄付者を増やす努力が必要です。その結果認定が取れば、免税が受けられるようになり寄付者にもメリットになります。

「おもしろ科学たんけん工房」の活動は、全く無償のボランティアの活動で支えられています。

スタートして数年の間は、活動にどうしても欠かせない、交通費実費を、全額支給していましたが、これは外部からの大口寄付や、横浜市との協働事業として実施することで、助成金を得られたからです。

その後は、それらがなくなったため、最近5年間はやむを得ず、交通費実費の、半額しか支給していません。これは、活動している皆さんから、実際に支出した交通費の半額相当額を強制的に寄付して頂いているのと同じことです。

しかしこれでは、寄付の実績になりませんし、活動すればするほど交通費の個人負担が増えるという矛盾があります。そこで、方向としては、やはり交通費の実費は、全額支給するべきではないだろうか?。そうすると、財政上は収支が悪化し、赤字になってしまうので、その部分を、会員を含む多くの方々からの寄付を積極的に集めることで、均衡させる・・・というのが正しいのではないのでしょうか?

5月末の総会では、そのような方針を提起して、まず正会員のコンセンサスを得たいと考えています。



第2期養成研修終了

9名の皆さんが 2011年度科学体験活動推進スタッフ養成研修を終了されました。

研修終了時アンケート 研修についての印象や感想 を書いて頂きました。

2011年度第2期科学体験活動養成スタッフ養成研修が
終了しました。9名の方々に研修終了時アンケートへ回答し
ていただいたので、その一部をこの紙面でご紹介します。
(お名前は伏せて A,B,C・・・の記号にしてあります)

設問 [1]	研修全体について、現時点でどのような印象をお持ちでしょうか？
設問 [3]	そのほか気になることがあれば、遠慮なくお書きください。

Gさん 60代 男性

(1) **よかった事** : この様な活動に取り組む人たちが
沢山いるということを知ったこと。また自分が経験した理
科工作・実験の楽しさ・わくわく感・感動を子供たちと体
験できるという事。

(2) **改めて感じたこと&改善したほうが良いと思
ったこと** : 工作工具の使い方の知識もさることなが
ら、小学高学年世代の子供と接する際の 気持ちの持ち
方・対応法、してはいけない事・よい事 心得るべき事 児
童心理 などについての内容がもう少しあってもよかつ
たのかな・・・と感じました。

(3) **感心したこと** : 講師の先生方や、現場実習や自由
実習で会った方々 皆さん非常に熱心に協力的に
取り組んでいる様子に接し感銘を受けました。

Cさん 60代 男性

このような活動をしてみたかったのですがなかなか
機会がなく、きっかけがつかめませんでした。
たまたまこのグループを見つけ講習に参加し、少年時
代に戻った思いです。
科学離れが叫ばれている中、何か少しでも手伝えるこ
とができればと思いますので
是非今後も参加して再勉強し、子供たちと楽しめれば
と考えます。
講習については工具等の使い方、イベントの心構え等
わかりやすく教えていただき、今後の活動に役に立てる
と思いました。これからもよろしくご指導ください。

Hさん 60代 女性

- ・ 工具実践講座は、今まで自分流に使っていた道
具の使い方を見直す非常に良い機会であった。
特にハサミの刃の使い分けには、目からウロコ。
- ・ 一つのテーマでも、いろいろな方向から取り組むこ
とが出来そうで、自分なりのシナリオを作る楽しみが見
つけられそう。
- ・ 時間の制約の中で子どもたちが満足した作品を作り上
げられるための下準備の素晴らしさに感激。
- ・ どのセミナーでも、主任とそれをささえるスタッフの
チームプレイが素晴らしかった。
- ・ セミナーで学んだことが、生活の中でどう生かされて
いるか、具体的な事例を挙げての説明があると、さら
に、科学への関心が深まると思う。
- ・ 進学塾等でも実験を授業に取り入れるように成りつつ
ある中で、おもしろ科学たんけん工房の位置づけを、
どう考えて行くかが、今後の課題。



Fさん 40代 女性

現場の方のお話を伺ったり、
映像を拝見し、実技面だけで
はなく、話のもっていき方など
が学べて良かったと思います。普段、小学生に接しないた
め、どのように話しかければよいのか、どこまで関与して
良いのかなどが具体的にわかりました。また、現場実習や
自由実習などを通して、自分自身も作る喜び、発見する喜
びが体験できて、童心に戻ったようで楽しかったです。
スタッフの方にはとても良くしていただき、感謝しており
ます。
(中略)
結婚・引っ越しが控えており、環境が変わると、その生活
に慣れるまで、しばらく時間が必要と思われる。具体的
な活動は、環境に慣れてきてからということと考えており
ます。

研修終了時 アンケート集計表			合計	割合 %
項目		選択肢	9人	100
満足度	1	大変満足した	3人	33
	2	満足した	5人	55
	3	どちらともいえない	0人	0
	4,	不満足、		
	5	非常に不満足		
		無答	1	11

無答は、日程の都合その他により、完全な
実習や集合研修が受講できなかったためです。(編集者)

第1期研修終了時 アンケートから

設問 [1] 全体を通しての感想

設問 [3] そのほか気になったことなど

Aさん 70代 女性

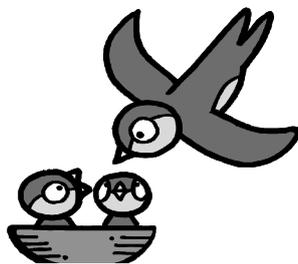
良かったこと: 集合実習で いままで何気なく使用していたハサミ、ナイフ、カッターなど安全に正式に使うことを習いました。これを身につけるようにします。

改めて感じたこと: 全体に親切に、丁寧な研修だったと思います。

特に印象に残ったこと: NHKのDVDでの荻須正義先生のインタビュー『学校はいやなこといっぱいあるけど生徒が好きなので教師でいる』との発言。

心配なこと: 理科が苦手な仕事は楽しいのですが、理解は身につかないのではと案じています。

楽しいこと: 我が家の孫(4人)はだんだん大人になりつつありますが、(工房の)塾ではいつまでも小学生に囲まれていられそうです。



Bさん 60代 男性

・ 私は理科や科学に対し特に
の思い込みはありませんが、

実習に参加する時にはワクワク感や期待感などがあった事、終わった後の達成感や満足感が大きかったこと、実習体験では工作や実験に没頭してしまったことなど、自分としては不思議な気持ちでした。

素直に考えると、以外や以外、自分はこの方面が好きなのではと非常に手応えを感じました。

研修のプログラム内容

[1] 集合研修(全員同一の学習)

- (1) 実習へのオリエンテーション
- (2) 工具の使い方・教え方 実習(基本と応用演習)
 - ① ハサミ 応用→切り絵の演習
 - ② カッターナイフ →風力車の製作
 - ③ ドライバー →指ピアノの製作
- (3) 講話 安全への配慮 ほめ方、叱り方
- (4) 事例研究 優れた教員の教え方(DVD視聴)
- (5) 実践へのオリエンテーション

[2] 個別実習(各人 日程・テーマを選択して)

- (1) 現場実習 科学体験塾のアシスタント・スタッフの役割を実習。
- (2) 自由実習 科学体験塾で児童と肩を並べて実験工作を実習。

参加することで、楽しさや新たな好奇心が湧いて来る活動であることが実感できました、理科系が苦手と言う子供、ゲーム機に熱中して家に閉じこもっている子供、色々な子供が居ますが、とにかく参加して貰えれば、なぜ何故・工夫・道具の使い方など、新たな興味や好奇心が湧き上がり、知識習得に積極性が増すものと思えました。自身、新たな境地を開けたと今後の展開が楽しみです。本研修に参加できたことの幸運に感謝しています。

・ しばらくは時間的に制限がある身ですが、工夫して時間を確保し早めに未経験のテーマに顔を出したいと考えます。また、向き不向きなどもあろうかと思しますので、取り組みたいテーマをじっくりと選別し研究を行いたいと考えています。

あるいは、未整理テーマの在庫があれば研究したいと思うのですが…。

現職の先生のお話やDVD視聴と発表、先輩方の指導・説明と盛り沢山でした。知らないことが多く少し焦りましたが、発見や興味を覚えたこと多く、良い研修であったとあらためて思っています。

しいて言えば、若い方が少ないのが(自身も還暦ですが…)気になりました、色々な世代がバランス良く居たほうが良いのではと思いましたが、お会いしたメンバーだけです。実は多数いらっしゃるのかも知れませんがね。

2011年度科学塾 最終3ヶ月の実績

開催日	会場	テーマ	参加数	応募数
1/14	鵜沼中学校	静電気のふしぎを実験/静電気モーターを作る	10	10
1/14	汐見台小学校	太陽熱風車とエコ発電機を作って 太陽の光と熱と風の力を知ろう	20	21
1/14	フォーラム南太田	ヘリコプターを作ろう	26	36
1/21	永野小学校	転がれ、進め、ジェットコースター	28	32
1/21	柏陽高校	静電気のふしぎを実験/静電気モーターを作る	11	12
1/21	森の台小学校CH	信号機を作って電気の勉強をしよう	33	36
1/28	湘南台高校	ICラジオを作ってみよう	25	29
1/28	フォーラム	転がれ、進め、ジェットコースター	19	26
1/28	こども科学館	鏡を作る不思議な世界; 万華鏡を作ってみよう	14	15
1/28	あざみ野	静電気のふしぎを実験/静電気モーターを作る	28	30
2/4	杉田小学校	レモンや食塩水で電池を作ろう	8	9
2/4	榎が丘小学校	たまねぎの皮で実験: ハンカチを染めよう	7	9
2/11	鵜沼中学校	紙コップでヘッドホンを作ろう	14	16
2/11	永野小学校	じゃがいもで実験/でんぷんを調べよう	22	25
2/11	柏陽高校	信号機を作って電気の勉強をしよう	20	24
2/18	こども科学館	ソーラーカーを作ってみよう	20	24
2/18	都筑地区センター	たまごを科学しよう	19	24
2/25	湘南台高校	やじろべえを作ろう	14	15
2/25	フォーラム	じゃがいもで実験/でんぷんを調べよう	12	14
2/25	フォーラム南太田	紙ブーメランを作って飛ばそう	21	25
2/25	瀬谷小学校	イカの観察と解剖	23	39
2/25	白幡小学校	水をきれいにする実験	13	16
3/3	汐見台小学校	光と色のふしぎな世界---簡単カメラ 兼分光器を作って光の実験	21	26
3/3	あざみ野	てんびんばかりを作って重さをはかろう	11	14
3/10	鵜沼中学校	空気の重さと圧力のふしぎを実験	7	9
3/10	柏陽高校	転がれ、進め、ジェットコースター	14	14
3/10	六ッ川台 CH	マサツとスベリのせかい	5	5
3/10	都筑地区センター	作ろう! ふしぎなテクテクザウルス	21	27
3/17	フォーラム	風に向かって走る 風力車を作ろう	9	12
3/17	こども科学館	光と色のふしぎな世界---簡単カメラ 兼分光器を作って光の実験	15	19
3/17	フォーラム南太田	転がれ、進め、ジェットコースター	28	33
3/24	湘南台高校	マクスウェルのコマを作ってみよう	12	17
3/24	永野小学校	手回し発電機で学ぶ電気の作り方	35	38
3/24	三保小学校	スチレン・ヒコーキを作ってみよう	17	19

会員の皆様へ：全体交流会 4月8日(日)
桜も見ごろの野毛山へぜひお出かけください。
盛りだくさんの展示あり、地域交流の機会です。

正会員の皆様へ：社員総会 5月31日(木)
おもしろ科学たんけん工房の運営を、みんなで
支えるため、ぜひご本人の出席を願います。